



日本酸素ホールディングス

2023年
3月期

報 告 書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

【報告書（株主通信）の廃止につきまして】

定時株主総会終了後に株主の皆様へお届けしておりました本報告書につきましては、当社ウェブサイトにて公開しております「定時株主総会招集ご通知」やその他ウェブサイト上の内容と重複していることに加え、地球環境等に配慮する観点から、2024年より発行を停止させていただき存じます。

株主の皆様におかれましては、何卒ご理解いただきますとともに、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

・当社ウェブサイトURL：
<https://www.nipponsanso-hd.co.jp/ir/stock/meeting.html>

証券コード 4091

企業理念 NSHD Group Philosophy

The Gas Professionals 進取と共創。ガスで未来を拓く。

Proactive. Innovative. Collaborative.
Making life better through gas technology.

グループビジョン NSHD Group Vision

私たちは、革新的なガスソリューションにより社会に新たな価値を提供し、あらゆる産業の発展に貢献すると共に、人と社会と地球の心地よい未来の実現をめざします。

We aim to create social value through innovative gas solutions that increase industrial productivity, enhance human well-being and contribute to a more sustainable future.

目次

株主の皆様へ	2	事業報告	7
中期経営計画	3	連結計算書類	11
		株主メモ	13



株主の皆様へ

代表取締役社長 CEO **濱田 敏彦**

株主の皆様には、平素から当社の事業運営に格別のご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社の2023年3月期報告書をお届けするに当たり、謹んでご挨拶申し上げます。

当期の世界経済は、ウクライナでの戦争が長期化する中、天然資源や農産物等の価格上昇により引き起こされたインフレとそれに伴う金利の上昇、また先進国での人手不足といった事情により、緩やかな成長にとどまりました。

こうした状況の下、当社グループの事業のコストに大きな割合を占める電力料金も世界各地で大きく上昇しましたが、グループ一丸となってコスト上昇分の価格への転嫁に努めるとともに、コスト削減、業務の合理化に取り組んで参りました。

その結果、当期の業績は増収増益となりました。このような業績に基づき、当期の期末配当金につきましては、2円増配し、1株につき20円とさせていただきます。これにより中間配当と合わせて、当期の配当は38円となります。

株主の皆様には、引き続き倍旧のご高配、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2023年6月

●当社グループ 中期経営計画

「NS Vision2026 | Enabling the Future」

当社は、2022年5月に、現在の持株会社体制に移行した後、初めてとなる中期経営計画として、「NS Vision 2026 | Enabling the Future」（期間：2022年4月から2026年3月までの4か年）を策定し、グループ総合力の強化とさらなる成長に向けて取り組んでいます。

詳しくは、当社ウェブサイト「中期経営計画」ページをご覧ください。
<https://www.nipponsanso-hd.co.jp/ir/management/plan.html>



財務KPI (2026年3月期)

売上収益	9,750億円~1兆円*
コア営業利益	1,250億円~1,350億円*
EBITDAマージン	グループ：≥24% 各事業セグメント：≥17~33%
調整後ネットD/Eレシオ	≤0.7倍
ROCE after Tax	≥6%

※グローバル経済の不確実性を踏まえ、売上収益およびコア営業利益は範囲表記としています。

非財務KPI

GHG排出量の削減率 (基準年度：2019年3月期)	18% (2026年3月期) 32% (2031年3月期)
環境貢献製商品によるGHG削減量	環境貢献製商品によるGHG削減貢献量 >当社グループのGHG排出量 (2026年3月期)
休業災害度数率	≤1.6 (2026年3月期)
女性従業員比率	≥22% (2026年3月期) 25% (2031年3月期)
コンプライアンス研修受講率	100% (2026年3月期)
女性管理職比率	≥18% (2026年3月期) 22% (2031年3月期)

カーボンニュートラル社会に向けた新事業の探求 行動計画

4か年の 行動計画

2023年3月期
から
2026年3月期
まで

早期に相応の成功実績（Quick-Wins）を積み上げる

- 鉄鋼・非鉄/ガラス/セメント/アルミニウム等の市場におけるカーボンニュートラルプロジェクトの獲得
- 水素社会に向けたHyCOプロジェクトの獲得

R&D、戦略的パートナーとの協業関係を構築する

- 各リージョンでのカーボンニュートラルプロジェクトへの参画とグループ間での共有
- 潜在的な戦略パートナーとの関係構築
- 酸素燃焼技術など注力すべきR&Dテーマへの積極的な資源投入

すべてのステークホルダーとのコミュニケーションを強化する

- コミュニケーションプラットフォーム^{*}の確立
- カーボンニュートラル活動のSNS掲載などを通じた当社グループのプレゼンスの向上

※コミュニケーションプラットフォーム：当社グループの技術やソリューションを紹介する、ウェブサイト「We enable a carbon neutral world」を開設しています。

<https://www.carbonneutralworld.com/ja/>



2030年 に向けて

「カーボンニュートラル社会に向けたソリューションプロバイダー」をめざす

- スローガン “Enable a carbon neutral world”

今後の主な 取り組み

グローバルでのHyCO事業の展開エリアを拡大する

- 2023年3月期に獲得した3つの事業案件の着実な遂行
- 実現性、経済性などを慎重に精査しながら、対象となりうる業界、顧客、プロジェクトの積極的な探求

サーキュラーエコノミー（循環型経済）市場でQuick-Winsを獲得する

- サーキュラーエコノミーで重要な役割を期待されるバイオメタン（再生可能エネルギー源の一種）市場の事業機会を探求
- 当社のガス分離・精製技術をもとに、バイオガスからバイオメタンを分離・精製する設備・機器の提案
- イタリアのHysytech社^{*}など、当社グループ出資先企業との連携を強化

※Hysytech社：2003年に設立されたエンジニアリング会社で、水素やバイオメタンなどのガス関連設備・機器の設計、開発、導入を行っています。

カーボンニュートラル社会に向けた新事業の探求

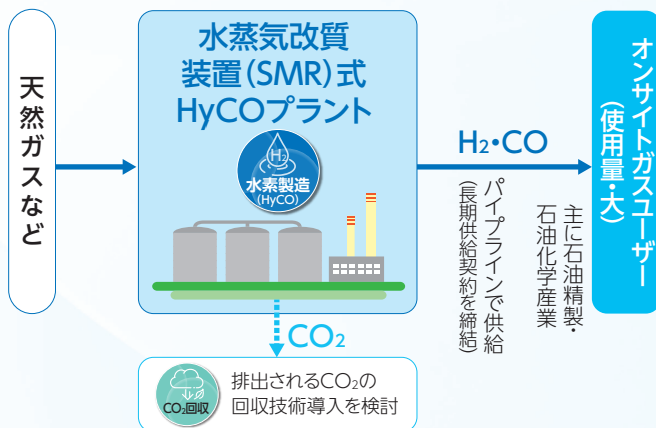
2023年3月期の進捗 (中期経営計画「NS Vision 2026」初年度)

当社は、カーボンニュートラルに貢献する技術領域として、以下4つの領域に注力しています。中でも「水素製造領域 (HyCO[®])」においては、当社の実績と知見に基づいた提案が評価され、グローバル (米国、ペルー、インド) で新たに3つの案件を受注しました。

※HyCO (ハイコ) 事業：主に石油精製・石油化学メーカー向けに水素 (Hydrogen、化学式H₂) と一酸化炭素 (Carbon monoxide、化学式CO) を供給する事業で、当社は2019年2月にLinde AGの米国における同事業を買収しました。現在、米国事業会社 Matheson Tri-GasのGlobal HyCO チームが同事業の中核を担っています。



供給フローイメージ



HyCOプラント外観



トピックス (2022年10月～2023年3月)

日本酸素ホールディングスの今が分かる、注目トピックスをご紹介します。

水素エンジン車両向けに水素ガスを供給！

2022年12月、当社グループの大陽日酸とNippon Sanso Thailandは、トヨタ自動車株式会社（トヨタ）が参戦した「IDEMITSU 1500 SUPER ENDURANCE 2022」（タイ）において、トヨタの水素エンジン車両向けに水素ガスを供給しました。大陽日酸は、これまで同社の参戦する日本国内でのレースにおいて水素エンジン車両への水素ガスを供給しており、今回は移動式パッケージ型水素ステーションをタイに移送し、供給を行いました。



サステナビリティテーマ IRカンファレンスを開催

2022年12月6日、サステナビリティをメインテーマとした、機関投資家向けIRカンファレンスを開催しました。同カンファレンスでは、中期経営計画「NS Vision 2026」の重点戦略である「サステナビリティ経営の推進」、「カーボンニュートラル社会に向けた新事業の探求」、「非財務KPI達成に向けた施策」について説明しました。

詳しくは、当社ウェブサイト「その他IRイベント」ページをご覧ください。

<https://www.nipponanso-hd.co.jp/ir/library/otherevents.html>



当社公式YouTubeチャンネルを開設！

2023年1月、当社は公式YouTubeチャンネルを開設しました。本チャンネルでは、当社グループのご理解をさらに深めていただける動画コンテンツを随時発信してまいります。

日本酸素ホールディングスYouTubeチャンネルはこちらです。

<https://www.youtube.com/@NipponSansoHoldingsGroup>



当社サステナビリティページ リニューアルオープン！

当社ウェブサイトに掲載しているサステナビリティ情報を分かりやすくお伝えするために、統合報告書の内容と連動したページにリニューアルを行っており、6月以降にリニューアルオープン予定です。



日本酸素ホールディングスのサステナビリティページ
<https://www.nipponanso-hd.co.jp/sustainability/>



事業報告 (2022年4月1日から2023年3月31日まで)

1. 企業集団の現況

(1) 当事業年度の事業の状況

① 事業の経過および成果

当期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）における当社グループの事業環境は、ウクライナの地政学的問題、米中貿易摩擦、世界的なエネルギーコストの高騰や物価上昇、円安の進行など、先行きを見通すことが困難な状況でした。この結果、主力製品であるセパレートガス（酸素、窒素、アルゴン）の出荷数量は、前期比で減少しました。一方で、コスト増加分の販売価格への転嫁等の価格マネジメント、さまざまな生産性向上への取組みに、グループ全体で注力しました。

このような状況の下、当期における業績は、売上収益1兆1,866億83百万円（前期比24.0%増加）、コア営業利益1,231億24百万円（同19.9%増加）、営業利益1,195億24百万円（同18.1%増加）、親会社の所有者に帰属する当期利益730億80百万円（同14.0%増加）となりました。

為替の影響については、期中平均レートが前期に比べ、米ドルで113円4銭から136円0銭へと22円96銭（同20.3%円安）、ユーロで131円11銭から141円62銭へと10円51銭（同8.0%円安）、豪ドルで83円33銭から92円67銭へと9円34銭（同11.2%円安）となるなど、売上収益は全体で約796億円、コア営業利益は全体で約99億円多く表示されています。

なお、コア営業利益は営業利益から非経常的な要因により発生した損益（事業撤退や縮小から生じる損失等）を除いて算出しております。

（事業別の概況）

セグメント業績は、次ページ以降のとおりです。

なお、当期より、従来、「日本ガス事業」「米国ガス事業」「欧州ガス事業」「アジア・オセアニアガス事業」「サーモス事業」としていた報告セグメントの名称を、「日本」「米国」「欧州」「アジア・オセアニア」「サーモス」に変更しておりますが、セグメント情報に与える影響はありません。

また、セグメント利益はコア営業利益で表示しております。

連結業績実績

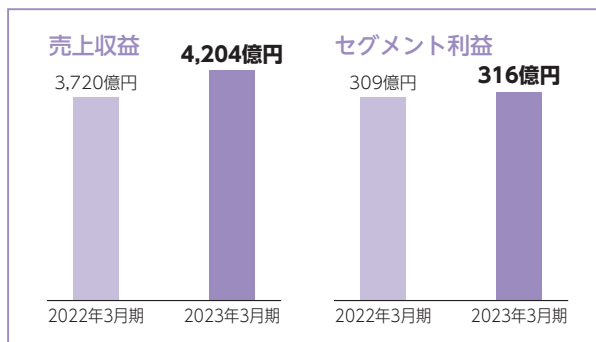
(百万円未満切捨て)



日 本

売上収益 4,204億52百万円 (前期比13.0%増)

セグメント利益 316億80百万円 (前期比 2.4%増)



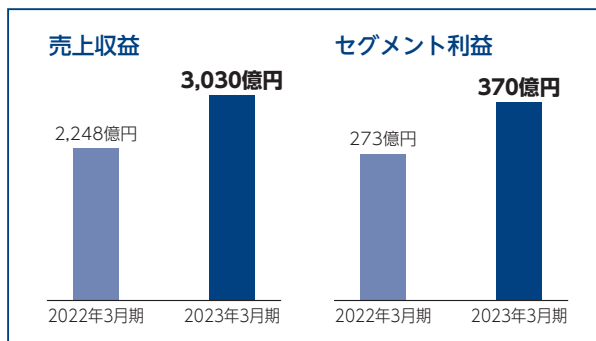
産業ガス関連の売上収益は、主力製品であるセパレートガスおよびLPガスにおいて出荷数量は減少したものの、コスト上昇に伴う販売価格の上昇により増収となりました。また、エレクトロニクス関連での電子材料ガスの販売は好調で増収となりました。機器・工事では産業ガス関連、エレクトロニクス関連共に、前期に比べ増収となりました。一方で、エネルギー価格や物価上昇の影響に伴う製造コストおよび物流費等の上昇が続いており、販売価格の上昇との間に時間差があることからセグメント利益を押し下げる要因となりました。

以上の結果、日本セグメントの売上収益は、4,204億52百万円(前期比13.0%増加)、セグメント利益は、316億80百万円(同2.4%増加)となりました。

米 国

売上収益 3,030億90百万円 (前期比34.8%増)

セグメント利益 370億74百万円 (前期比35.7%増)



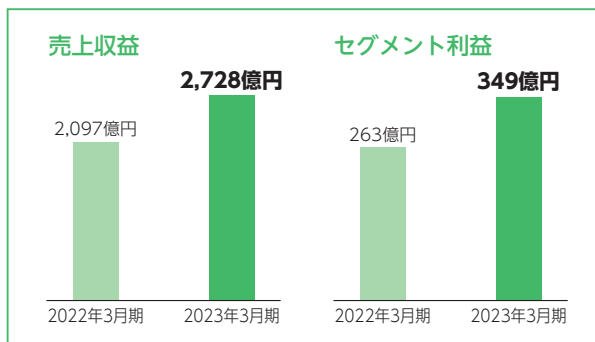
産業ガス関連では、主力製品であるセパレートガスの出荷数量は前期並みでしたが、売上収益はコスト上昇に伴う販売価格の上昇により増収となりました。また、炭酸ガスの販売が好調でした。機器・工事では、溶接・溶断関連機材で前期に比べ大幅に増収となりました。一方で、エレクトロニクス関連は減収でした。

以上の結果、米国セグメントの売上収益は、3,030億90百万円(前期比34.8%増加)、セグメント利益は、370億74百万円(同35.7%増加)となりました。なお、円安の影響で売上収益およびセグメント利益は多く表示されています。

欧 州

売上収益 2,728億88百万円 (前期比30.1%増)

セグメント利益 349億4百万円 (前期比32.7%増)



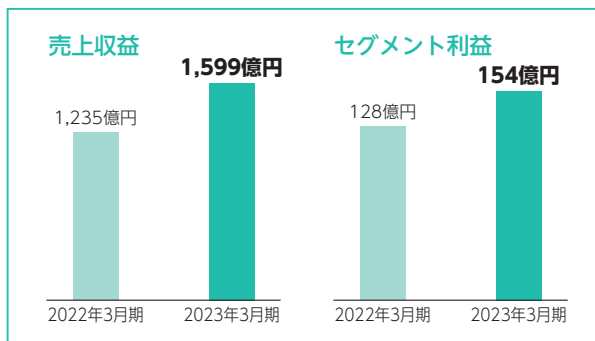
主力製品であるセパレートガスは、顧客の稼働状況により出荷数量が減少しましたが、エネルギー価格と物価上昇の影響等による大幅なコスト上昇を販売価格の上昇で吸収できた結果、売上収益は大幅な増収となりました。また、生産性向上とコスト低減の取り組みによる寄与がありました。

以上の結果、欧州セグメントの売上収益は、2,728億88百万円 (前期比 30.1%増加)、セグメント利益は、349億4百万円 (同 32.7%増加) となりました。なお、円安の影響で売上収益およびセグメント利益は多く表示されています。

ア ジ ア ・ オ セ ア ニ ア

売上収益 1,599億65百万円 (前期比29.5%増)

セグメント利益 154億65百万円 (前期比20.5%増)



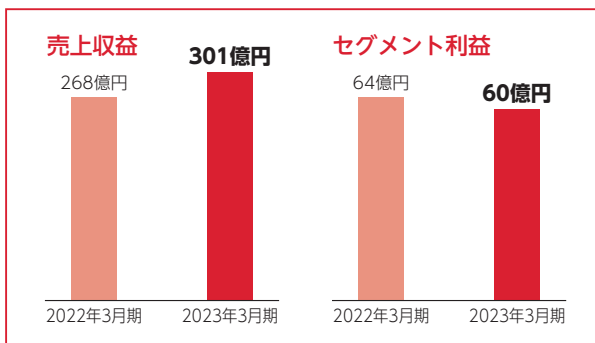
産業ガス関連では、主力製品であるセパレートガスの出荷数量は堅調に推移し、売上収益は増収となりました。主に豪州地域での販売が多くを占めるLPガスでは、引き続き仕入れ価格の上昇による販売単価の上昇と堅調な販売数量の推移により増収となりました。エレクトロニクス関連では、ガス・機器ともに好調に推移し、増収となりました。

以上の結果、アジア・オセアニアセグメントの売上収益は、1,599億65百万円 (前期比 29.5%増加)、セグメント利益は、154億65百万円 (同 20.5%増加) となりました。なお、円安の影響で売上収益およびセグメント利益は多く表示されています。

サ ー モ ス

売上収益 301億90百万円 (前期比12.4%増)

セグメント利益 60億21百万円 (前期比 6.5%減)



日本では、2022年春に政府による外出等の制限が緩和されたことから、ケータイマグやスポーツボトルの販売は増加し、加えて、フライパンなどの調理用品も好調に推移し、売上収益は大幅な増収となりました。海外での販売も順調でした。セグメント利益は物価上昇による原材料価格の上昇と円安による製造コストの増加で減益となりました。

以上の結果、サーモスセグメントの売上収益は、301億90百万円（前期比 12.4%増加）、セグメント利益は、60億21百万円（同 6.5%減少）となりました。

(注) 当期のコア営業利益1,231億24百万円は、各セグメントのコア営業利益の合計金額から調整額2,021百万円を差し引いたものです。調整額には、セグメント間取引消去743百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用等1,278百万円が含まれております。全社費用等は、主に報告セグメントに配分していない当社におけるグループ管理費用であります。

連結計算書類

連結財政状態計算書 (2023年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資産		負債	
流動資産	527,074	流動負債	425,157
現金及び現金同等物	132,217	営業債務	128,197
営業債権	243,541	社債及び借入金	140,540
棚卸資産	97,612	未払法人所得税	16,191
その他の金融資産	22,479	その他の金融負債	102,119
その他の流動資産	26,152	引当金	284
売却目的で保有する資産	5,070	その他の流動負債	37,824
非流動資産	1,631,875	非流動負債	975,796
有形固定資産	776,148	社債及び借入金	759,480
のれん	513,685	その他の金融負債	35,693
無形資産	242,334	退職給付に係る負債	14,117
持分法で会計処理されている投資	38,230	引当金	5,440
その他の金融資産	46,763	その他の非流動負債	20,364
退職給付に係る資産	2,810	繰延税金負債	140,700
その他の非流動資産	8,461	負債合計	1,400,953
繰延税金資産	3,442	資本	
		親会社の所有者に帰属する持分合計	724,314
		資本金	37,344
		資本剰余金	51,610
		自己株式	△ 233
		利益剰余金	537,867
		その他の資本の構成要素	97,724
		非支配持分	33,682
		資本合計	757,996
資産合計	2,158,950	負債及び資本合計	2,158,950

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書 (2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額
売上収益	1,186,683
売上原価	△ 748,053
売上総利益	438,630
販売費及び一般管理費	△ 315,191
その他の営業収益	5,182
その他の営業費用	△12,650
持分法による投資利益	3,553
営業利益	119,524
金融収益	2,182
金融費用	△ 16,203
税引前利益	105,503
法人所得税	△ 29,538
当期利益	75,965
当期利益の帰属	
親会社の所有者	73,080
非支配持分	2,884

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年の3月31日まで
定時株主総会	6月に開催
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社

公告方法	当社ウェブサイト (https://www.nipponsanso-hd.co.jp/) に掲載します。 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場金融商品取引所	株式会社東京証券取引所
証券コード	4091
単元株式数	100株

株式事務に関するご案内

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先	お取引の証券会社等になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝休日を除く午前9時～午後5時)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)		みずほ信託銀行 本店および全国各支店 *トラストラウンジではお取扱いできませんので ご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行 本店および全国各支店	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」 の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱 店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株 式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、 株式の振替手続を行っていただく必要があります。



日本酸素ホールディングス

